

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4150180018		
法人名	医療法人 清友会		
事業所名	グループホーム 和泉		
所在地	佐賀市久保泉町大字川久保5457番地		
自己評価作成日	平成26年12月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html">http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成27年2月16日	外部評価確定日	平成27年3月17日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>病院併設のグループホームである為、医療との連携が密に行えるようにしている。また、状態の変化が生じた場合、すぐに医師・看護師が来室できる体制が整っている。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>山や田畑に囲まれ、自然の豊かさが感じられる環境に立地するグループホームである。同一敷地内には母体である医療施設が隣接し、協力体制が築かれ、常にバックアップが受けられる体制にある。認知症の専門的な診察が行われている病院で、退院後の生活を支援することも視野に入れ13年前に設立されたホームであり、経験豊富な職員が、入居者の一人ひとりと向き合い、入居者のペースを尊重しながら、穏やかな暮らしを支援している。入居者は同一法人のデイケアセンターを利用することも可能である。リハビリの専門職による関わりを、入居者や家族の希望により受けられることは、このホームの特徴といえる。二人部屋が設けられており、夫婦での入居や、個室では不安な方の入居に対応している。</p>
--

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で「その人らしく」生活していただけるよう、職員一丸となって取り組んでいる。	母体の病院の理念の基、ホーム独自でもケア理念を掲げ、職員はその実践に努めている。ホームが家庭生活の延長であり、入居者本位で支援する考えは、設立当時から変わらずに今も受け継がれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や活動は参加していないが、常に見学などの受け入れは可能にしている。	自治会への加入はないが、地域のお祭りに参加、見学する機会がある。同一法人のデイケアセンターで、地域老人会やボランティア受け入れを通じ、交流が行われている。また、近隣の方にホームの畑作業の指導を受けることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人での取り組みはしているが、事業所単独での取り組みは行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果について報告を行い、委員から意見を聞いている。	運営推進会議は、地域代表や家族、職員が出席して定期的に行われている。ホームの見学や現況報告が主な内容だが、ホーム便りを回覧板で地域に回す等啓発に繋がる提案も出されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に運営推進会議で行っている。また、法人担当者が市町村との連携を行っている。	法人の担当者を通じてホームの空き情報を含め、現状を伝えている。市の主催するネットワークで事例報告会やサービス向上検討会が行われ、定期的に出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。また、玄関の施錠も必要時以外は行っていない。	身体拘束廃止マニュアルを作成している。また、法人内外の研修に積極的に参加し、拘束をしないケアの実践に努めている。玄関ドアに鈴をつけ、鍵をせず見守りに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされないように注意を払っている。また、虐待防止に関する勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	H25年度に成年後見制度の勉強会は実施しているが、日常生活自立支援事業についての勉強会は実施していない。しかし、必要時法人相談員と連携を図り、支援できる体制は整っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族より要望などを伺うようにしている。また玄関に、ご意見箱を設置し運営推進会議にも参加を呼びかけている。	面会時には、近況報告を行い日頃から関係の構築に努めている。ケアに関する要望や、運営への意見など受けている。推進会議での意見により、受診時に職員が家族と共に同行するなどサービスの向上に繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月検討会を実施し、法人からも参加している。また、日々の業務の中でも意見が反映できるように取り組んでいる。	入居者の目線に立っている職員からの意見として、耳を傾けるようにしている。個別に意見を聞くために個人面談も行き、意見の把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し(申請書の提出)、必要時個人面談を行い、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月勉強会を実施し、施設外研修などにも参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人の他のグループホームと毎月勉強会を実施し交流している。また、地域包括支援センターの勉強会等に参加し、地域の事業所と交流している		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前や入居時に面談を行い、要望などを聞きながら情報収集に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前や入居時に面談を行い、要望などを聞きながら情報収集に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族などから要望をお聞きし、必要であれば他のサービスも利用できる体制は出来ている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干し、洗濯物たたみ等手伝って頂いたり、行事の際に習わしを教えて頂いたりしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡などで近況を報告し、必要時要望などを聞きながら計画を作成している。また、運営推進会議に全家族毎回参加を呼びかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら、馴染みの美容室へカットに行かれたり、法要へ出席されている。	出身地からの面会もあり、お茶等の接待を行う等、関係が継続するよう支援している。切手を預かり手紙を書いてもらったり、電話の支援をしている。携帯電話を所持されている入居者もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の準備や洗濯物たたみ等、入居者様同士協力しあって行われている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用されている病院や施設に面会に行ったり、家族と会った時に話したりしている。必要時相談員などとの連携も図るようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様や入居者家族と相談しながら決めている。	一日の流れがゆっくりとしており、日頃の関わりの中で、一緒にテレビを見ている時や、入浴介助をしながら、本人の意向の把握に努めている。職員の気づきを申し送りノートに記入し、共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様についての連絡表や相談記録などがあり、生活歴の把握に努めている。また、入居前の担当ケアマネや家族にも様子を尋ねたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者それぞれの言動や手伝いの内容、レクへの参加の有無などを記録し把握している。毎月の検討会で情報交換を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時や電話連絡の際に家族の意見を尋ねている。検討会の時に本人の考えや状況を伝え、話し合いを行っている。	毎月の検討会議で計画、評価、見直しに関する内容を話し合っている。家族には、事前に相談し意向を伺い、計画を立案している。計画は、個々の能力や希望が反映されたものとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の状態を出来るだけ詳しく記録するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防、公共機関などに理解を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医への受診なども継続し、ご本人やご家族の要望を聞きながら支援している。	本人や家族が希望される医療機関へ受診され、情報提供に努めている。基本は、家族に付き添いをお願いしているが、無理な場合は、職員が同行するなど臨機応変に対応している。母体が病院であることも家族の安心に繋がりが、かかりつけ医の変更希望も多い。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が月の半数は勤務(夜勤を含む)しており、必要時は電話連絡を行っている。また、併設の病院からも看護師に来てもらい処置などを受ける事が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設病院の主治医などと相談しながら対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の説明など主治医との連携を図りながら方針を決定しチームケアが出来る体制は整っている。	重度化や終末期に関する指針を作成し、母体病院との連携をとりながら、支援していく体制がある。段階ごとに関係者が話し合い、終末期には、家族がホームで付き添い看られるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行っており、対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を行っている。また、災害対策マニュアルも整備している。	定期的に災害避難訓練を実施し、消防署の立ち合い、指導を受けている。職員寮在住の職員や母体の医療施設との連携が取れ、協力が得られる体制にある。	法人の協力体制は取れているが、地元消防団や地域住民の協力を得た訓練にも取り組まれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様中心の生活の場である事を認識し、言葉遣いなど細心の注意を払っている。	法人で接遇研修を開催し、人格尊重に関する内容を意識する機会としている。スピーチロック等職員同士がお互いに注意したり、管理者が指導をすることもある。職員の関わりは笑顔のある優しい言葉遣いである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の話を傾聴し、職員の話がよく伝わるように、短く・はっきりと話すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	見守りを重視し、本人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昔からの愛用の化粧品を使用したり、家族の協力を得て、今までの美容院に行かれたりされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立について話題にしながら一緒に準備し、食事を摂り、後片付けを行っている。	入居者の好みを献立に取り入れながら、楽しい食事となるよう配慮している。入居者の出来ることを日課に取り入れることを理念にも掲げ、食事の準備から後片付けまで職員と一緒にしながら、活気ある生活となるよう支援している。母体施設の栄養士に献立のチェックをしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼や嚥下状態に応じて、常食や刻み食などの提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きを行っている。また、義歯の方は入れ歯洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、各自の排泄パターンを把握し、トイレの声かけや誘導を行っている。	個別の排泄パターンに応じ誘導することで、トイレでの排泄に繋げている。誘導により、日中は紙パンツをせずに過ごせるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や軽体操を行ったり、時にはマッサージを施したりしている。また、牛乳やヨーグルトを使用したり、繊維質の多い食材を使って便通を良くするように工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	湯の温度や時間など一人一人に合わせるようにしている。	一日置きの入浴を基本としているが、希望があれば毎日でも臨機応変に支援することが出来る。入浴しない日には足浴を実施し、気持ち良く生活していただくよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状況を見ながら休息を促すようにしている。日中はレクリエーションなどを行い、夜間の睡眠につながるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況を把握し、薬の内容に変更があれば、看護師に聞いたり、薬辞典で調べるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	めだかの飼育や農作業のアドバイスを頂いたりしている。また、洗濯物干しや食器洗いの手伝いなどもして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は戸外へ散歩に出かけている。また、家族の協力を得て墓参りや親族の家への訪問などもされている。	豊かな自然環境を活かし、日常的に散歩を支援し、外の空気を感じていただいている。季節に応じたドライブに出かけ、また、個別の外出には家族の協力を得ている。	



自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在現金を所持されている方はいらっしゃらず、また買い物なども行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたり、手紙を出したり、いつでも連絡が取れるようにしている。携帯電話を所持されている利用者もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しが眩しい時等はブラインドを下ろすなど調節している。また、季節の行事にちなんだ飾り付けをするようにしている。	ホールは、キッチンを中心にした設えで、入居者と職員がキッチンを中心に集まりおしゃべりしたり、趣味の貼り絵等をするなど楽しみの空間となっている。畳の間には雛壇の飾りつけを入居者と一緒にされている。天窓があり、明るく季節の花が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースがあり、ソファなども置いており、自由に利用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力を得ながら、本人の使用していたものを持って来て頂くようお願いしている。	入居時には、馴染みのある物を持参していただくよう説明しており、それぞれに椅子やテーブル等使い慣れた家具が配置されている。得意の貼り絵を居室いっぱい飾ったり、位牌にはお茶が毎日供えられ、家庭の延長としての居室を作り上げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りの設置や浴槽の滑り止めなど安全に配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)  
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。  (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。  (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。  (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。  (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。  (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない